

町おこしに必要なものについて

1. 活動先で行っていること

私が選択して行ってきた活動先では主に地域活性化の為に地域住民が盛り上がる行事を考え、その企画を行うといった活動をしている。しかし、毎日企画を考えて行事を行っているだけではない。活動先の代表者も言っていたが、コツコツと積み重ねることにより町おこしを行えるという話を聞いた。活動先では地域住民とのコミュニケーションを取る為、活動先に来た地域住民とお話し、また歩いて回り、会った人と会話をしている。この活動先では地域住民とのコミュニケーションを大事にしていることから困っている時はお互いが助け合える。活動先と地域住民が深い繋がりを持ち、支え合うことのできる良い活動先であった。

2. 活動内容（目標、内容、成果、課題）

私は、町おこしについて地域住民と活動先の関係性を知りたいと思った。町おこしは町全体を盛り上げていかなければならない。一人の力では町全体の作業をしていくのは難しい。しかし地域住民の力を借り、協力し合うことで作業は格段に進み、町おこしは良い方向に成り立っていくのではないかと考えていた。これらを考え、地域住民とのコミュニケーションについて学ぶことを目標として活動を行った。

活動内容としては亀崎の町を歩いて見て回り、亀崎の歴史を学ぶことができた。また昔から変わらないから山車といったような祭りが古くから行われているということもあり、伝統的な町であることを知ることができた。活動先に企画の準備を考える為に来っていた亀崎の地域住民の人達とお話しする機会があり、行事のことについて一緒に混ざって話を聞かせてもらった。活動先の代表者と地域住民との関係として繋がりがとても深いものであり、みんながよくお世話になっていると言うほどのものであった。私が考えていたことと同じように活動先では協力し、お互いが支え合っているからこそ町おこしが成り立っているのであると思った。また、スタンプラリーといった企画を行い、地域の子供達や高齢者の人達と関わる機会があり、コミュニケーションを取ることができた。

活動内容を行った結果、地域住民を主体として行われる町おこしは活動先と地域住民が協力し合えるほどの良い関係であることを改めて知ることができた。またコミュニケーションの取り方について一人一人に対して挨拶を行い、その日の出来事など会話に繋げ、広げていくことが大切であると感じた。この二つの目標が活動によって達成することができた。しかし私の中では地域を盛り上げる為にもどういった企画が必要なのか。地域住民が楽しんでくれるような企画を明確に考えられなかった。また地域の現状を全て把握できていなかったことが課題だった。

3. 学び、気づき

私はこの活動を通して、住民と良い関係を築き上げること、コミュニケーションの大切さを学んだ。それは地域全体の活性化はNPO団体等だけが行うのではなく団体とその町に住んでいる住民が連携し、主体となって行うことで町を活気づけていく。その為にも活動先の人と地域住民がお互い困っている時、共に助け合い支えることが必要になってくるのであ

ると私の中で結果的に結びつけることができた。さらに、昔からその町に住んでいる高齢者が町おこしに必要なものとは何なのかという疑問に着目し、高齢者の町おこし案をテーマとして研究を行った。一つ目は良い機会を作る為にも高齢者向けのイベントをもっと考えることだ。人と交流し合える場を設け、子どもから大人まで幅広い世代の人と関わるのが大事になってくる。なぜならこういった企画は高齢者にとっても生きがいになり、そして子供たちが知らない知識を高齢者から学び、お互いが良い影響を与えられるからだ。このことからたくさんの方が来てもらえる地域を目指すことが地域の活性化に求められていることだと分かった。二つ目は体の自由が利かない人でもイベントに参加しやすいよう、高齢者が行き来しやすい交通アクセスの整備もしっかり行える環境を作ることが必要である。最後に高齢者も地域住民主体として町おこしを行うことだ。地域の町おこしとして必要なことは地域住民を中心に行っていくことが第一に大切になってくる。昔から住む高齢者も住民の一人であり、たくさんの知識を取り入れることで良い町を作ることができるであろう。地域の活性化は地域住民が自分たちで行うことであり、地域に合う町おこしを高齢者の意見も出し合いながら自分たちのやり方で考えて行う。これは高齢者を含め、町に住む全員の力を合わせるからこそ地域を盛り上げるができる。したがってこの三つの研究内容から町に昔から住む高齢者が町おこしに必要なものについて分かった。

4. まとめ

以上のサービスラーニングを通して私はコミュニケーションの大切で、活動先でも自分からコミュニケーションを取る為に自分から会話に入ることを心掛けていた。そういった意識から地域住民と話しをすることで亀崎についてもっと知ることができた。思い切って話しかけ、会話に繋がれた自分が少しでも積極的に行動できたのではないかと思う。これは自分の考えや意見を持ち、それを行おうとする積極的な行動の変化が表れたのではないかと感じた。また困っている人を助ける為にも自分が行動しなければ何も始まらない。今回の活動から何かできることを考えて行い、相手を思いやる気持ちを持てたことで自分の心が少しでも成長したのではないかと考えた。

今回の活動での経験から学んだこととしてコミュニケーションの大切さ、お互いを助け合う気持ち、積極的に行動するなど大切なことを現場に行ってたくさん学ぶことができた。今後、この活動先で得たものは自分の中で何かに役立て、別のことで活用していけるように活かしていきたい。

社会福祉基礎演習レポート

社会福祉学部 社会福祉学科

15FF3107 新見直輝

今年の夏にサービ斯拉ーニングで現場体験を行わせていただいた活動先は「非営利活動法人亀崎まちおこしの会」です。亀崎まちおこしの会では地元である半田市亀崎町の活性、亀崎町の知名度向上を目的に活動を行っています。亀崎まちおこしの会では半田市を始めとする地域住民に対し、亀崎に現存する歴史、文化を守り、次世代へ繋ぐことを継続しながら、まちおこし、人づくり事業を展開し、まちを再生、繁栄させ、みんなが元気になれるまち、住みたいまちを目指すことを目的として活動しています。

主な活動内容は亀崎の山車、潮干祭の保存応援事業、まちの伝統文化共地域活性化事業感事業、子どもの創造性、自主性をサポートする事業などです。活動を行っていった結果地域の住民が目的もなく集まり会話を楽しむ、亀崎で活動するボーイスカウトや地域のお祭りの打ち合わせでしようされる、小学生が遊び場になる、書道教室に絵画教室が開かれるなど幅広い世代の憩いの場となっています。目標を達成しているように見えますがいくつか問題があると思います。地域に住んでいる子供、若者、高齢者には賛同されていて協力的であります、亀崎町以外の人ほとんどいませんでした。亀崎町内はつながりが深くなっていてまちおこしが成功しているようにみえますが住みたいと思える町にはまだなっていないと思います。

活動を行い自分の中でのまちおこしのイメージが変わりました。活動を行う前はまちおこしは大金がかかる大掛かりなイベントだと思っていました。ですが実際のまちおこしはお金のかかった大掛かりなものではなく人と人のつながりを深まるよう亀崎を歩き回りあいさつを通して顔なじみになり少しずつであるがつながりを広げていくとてもじみなものでした。いままでつながりが大切であるということは学校のクラス内の人間関係、部活動での先輩との関係や同学年、パートナーと関係づくりでわかってきたつもりでした。人間関係で失敗した人が学年とはず避けられ、いじめを受けていたので自分は何も被害は受けていないが第三者の目線で関係がどれだけ大切なのか感じてきました。活動を通していろいろな人に出会いました。その中でスタンプラリーの手伝いをしているなかで、子供、大人、高齢者がたくさん参加していました。その中でも見ているがはまで笑顔になるくらいの笑みでスタンプラリーを楽しんでいるのを見て子供の笑顔を増やすにはどうすればいいのか気になり研究のテーマに子供の分野を選びました。子供の分野の中の引きこもりについて調べることになりました。活動用内容とは真逆ではありますが、何らかの問題を抱えている子供が外で行われるイベントに当たり前で自然と明るい子供しか集まりません。そこで問題を抱えている子供に注目してその中でも、引きこもりに注目しました。調べた結果子供自身の心の面に問題があるのはもちろんですが、家庭環境が一番の問題であると考えました。暴力を振るう親、酒におぼれる親、子供に関心がなく家に一人で置いても何も感じない親などい

ろいろとあります。そんな子供の居場所を作るのはもちろんだが、親の心、考え方を直すことが必要だとわかりました。親と子、親とまわりの関係につながりを作ることが子供の笑顔を守るための方法だとわかりました。

サービスラーニングを通して相手とよい関係を作ること互いに心を開いてもらえることを学びました。今後の実習では利用者と関係を作り心を開いてもらえるよう相手との距離のとり方などに気をつけつつ実習を行いたいと思います。

地域活動の大切さ

私はサービスマーケティングで、半田市の亀崎という地域の魅力を地域住民やそれ以外の人にも伝えていこうという取り組みを行っている特定非営利活動法人亀崎まちおこしの会に行った。

亀崎まちおこしの会では、まちの歴史を学びながらNPOの活動の中で、NPOと地域住民がどのように関わっているか、また、どのようにして地域住民との信頼関係を築いているのかを自分たちも実際に亀崎の人と関わりながら学ぶということを目指して、亀崎のまちを見学しながら歴史や文化を学んだり地域の人と触れ合ったりした。他にも、スタンプラリーや盆踊りのお手伝い、祭りで使用する太鼓の体験などで亀崎の人はもちろん、それ以外の地域の人たちともNPOの活動を通して関わっていくといった内容の活動を行った。その結果、亀崎の歴史を肌で感じ、地域の山車などといった伝統行事があるが、それは若い人たちだけではなく、高齢者の人たちも協力しながら地域全体で地域活性化を目指していることがわかった。また、イベントなどのお手伝いをする中で地域住民の人たちと自然に触れ合う機会が増え、亀崎のことやそれ以外についてのお話も聞くことができた。しかし、積極的に自分から話しかけに行くといったことができず、地域住民の人たちから話しかけてもらうこともあった。そのため、多くの人と会う機会はあったが、その人たち全員と話すことはできなかった。自分から積極的に話ができなかったため話が盛り上がるのにかなり時間がかかってしまい、もっと積極的にしたらよりたくさんのお話が聞けたのという課題が残った。また、地域を活性化させるために何をしたらよいか、信頼関係をより強めるためにはどうしたらよいという考えは各自持っていたが、それを行動に移すことができなかった。

私が活動先で一番印象に残ったことは、NPOと地域住民の人との信頼関係の築き方についてである。活動先に行くまでは、NPOが住民との信頼関係の築くのに大きな行事を開いたり、様々な施設と連携をとったりして住民をサポートすることで信頼関係を築いているものだと思っていた。しかし、活動先に実際に行ってみて、そんなに派手な行事を開いているわけでもたくさんの施設などと連携をとっているわけではなかった。亀崎まちおこしの会で、地域との信頼関係を築くためには派手な行事を単発で行うのではなく、普段の地道な活動の積み重ねが大事であることがわかった。そうすることで地域の人たちと継続的に関わることができ、少しずつ信頼関係を築いていくことができることを学ぶことができた。さらに、亀崎での地域活動の姿を見てみると、高齢者が多い場所であったが、年齢に関係なくそれぞれ意見を言い合っていたというのも信頼関係を築くための1つの方法ではないのかと感じた。年をとった方はなかなか下の世代の意見を取り入れず、若い人もあまり高齢の方に意見を言えないものだと思っていた。しかし活動先では、地域のためになるものならどどん意見を取り入れ、下の世代がやりたいことに極力挑戦させてあげたいとっていて、そういった考えができるのは本当に亀崎が好きでよりよいまちにしたいという気持ちが伝わった。

以上のサービスマーケティングを通して、私は地域の人と信頼関係を築くためにもっとコミュニケーション能力を上げなければいけないと改めて感じた。そして、よりよいまちにしていくためには意見をだしあっていくことが大切であると思うので、自分の意見を

もう少しだしていくといった成長や変化をして、今後地域住民と信頼関係を築いていけるようにしたい。

将来へのステップ

社会福祉学部、社会福祉学科 2年 15ff4105 武藤寛知

私は夏のサービランニングで特定非営利活動法人亀崎町おこしの会に行って町おこしについて学んできた。

亀崎町おこしの会とは、半田市を始めとする地域住民に対し、亀崎に現存する歴史、文化を守り、次世代へ繋ぐことを主な目標としており、まちおこし、人づくり事業を展開し、まちを再生、繁栄させ、みんなが元気になれるまち、住みたいまちを目指すことを目的に活動していた。

特に町自体を活性化させるため、亀崎に遊びに来たお客様に亀崎を楽しんで知ってもらうためにスタンプラリーを行ったり、亀崎で続く伝統的な行事として三味線をひいたり、祭りがあるときには地域全体で協力して祭りを盛大に盛り上げたりと町を元気付ける活動を積極的に行っていた。

特に力を入れて行っていたのが潮干狩り祭といってこの行事は衣浦港に面した半田市亀崎地区で毎年5月3日4日に行われる祭りであり、「亀崎潮干祭」は神前神社の祭礼で、豪華な刺繍幕や精緻な彫刻で装飾された5輻の山車（東組宮本車・石橋組青龍車・中切組力神車・田中組神楽車・西組花王車）を干潮の海浜に曳き下ろす勇壮華麗な祭りであると亀ともの石川さんは言っていた。

その結果、亀崎は町おこしが盛んだと世間から注目されるようになり、多くのメディアからも注目されるようになり、亀崎に足を運ぶお客様が増え、町の活性化が4,5年前に比べて大きく批評したため町おこしに関しては達成できつつあると言っていた。

しかし、町全体を巻き込んだ町おこしだったが、もともとお年寄りが多い地域であり、若者が少ない事が課題だった。

若者が少なく、体力仕事（空き家の解体などの土木作業等々）などがはかどらなくなりつつあり、また最近では若者の人は町に出てしまう傾向があり、若者が少ないことが課題となっている。

そこで、何故亀崎から若者がどんどん町にでてしまうか地域の方であったり、ボーイスカウトの方、また特定非営利活動法人亀崎町おこしの会の方々に聞いてみたところ、亀崎には遊戯場が少なく、またスーパーや家具屋も少ないことから若者の方（10代～25歳）が町に出た方が暮らしやすいという意見が多いと聞き、町に出てしまうケースがあるとわかった。

しかし、夏のサービランニングでスタンプラリーのお手伝いをしながら時々遊びにくる、小学生くらいの子達を見て、私は数少ない子供の笑顔を亀崎の町から消したくないと思い、また少子高齢化である今の日本の現状におかれた子供はどのような感じの子が多いか気になり、調べてみたいと思った。

そこで、子供の現状を知りたいということで不登校の分野に関心を持ち、不登校児の現状であったり、また支援方法についても研究してみたいと思った。

研究を通して学んだ事は、不登校の原因としてその家庭環境（親の行き過ぎた過保護だったり、DVな家庭）だったり、学校でのいじめが原因に起こることが多い。この結果として子供は恐怖、不安、不信、意欲の低下などに陥り引きこもり、不登校になると考える。

また、成長期特有の心の問題（特に何かあったわけでもなくとも色々と悩んだり、ちょっとしたことで過剰に落ち込んでしまったり、クラスメイトが自分のことをどう見ているか妙に気になったり、まわりと自分を比べて「自分は普通ではないのではないか？」と思い悩んだり）が本人の中に生じ、それが不登校の原因になることが非常に多いと学んだ。

また、支援方法としては子供の話を聞いてあげれる空間として、公的機関である教育支援センターやNPO、ボランティアといった民間組織やコミュニティ・スクールなどがある。

教育支援センターでは、不登校児童生徒の集団生活への対応、情緒の安定、基礎学力の補充基本的な生活習慣の改善等のための相談・適応指導等のための相談・適応指導を行う上での有効な取り組みを行っており、不登校を改善させるには、民間組織に頼るのが一番なんじゃないかと思った。

以上、私はサービ斯拉ーニングを通して、町おこしとはその地域を活性化させることができるようになったし、このような活動をすることによって過疎地域の課題である孤独死なども防げ、また町全体が明るくなってくると思った。

今後、私のしてみたい活動としてまだ明確に決まっているものではないがボランティア活動をしながらその地域で困っている子供達であったり、お年寄りの方などの問題解決をしつつ、地域の活性化につなげる活動などをしていきたいと思ったので、今回のサービ斯拉ーニングで行った亀崎町おこしの会での活動は自分の中では為になった。

今後は、この経験をいかして自分も困っている地域の課題解決や町の活性化などの活動に協力できたらいいなと思った。